



神奈川県東ロータリークラブ

KANAGAWA EAST ROTARY CLUB

2015-2016年度 第17週報 No. 1906 2015年(平成27年) 11月6日 第1906回 例会記録 11月13日発行

本日〈11月13日〉のプログラム

- ◆ 斉唱 「我らの生業」
- ◆ 献立 真鯛のポワレ
- ◆ 卓話 「真に健康になる家づくりとは」
株式会社 山の木 代表取締役 八巻 秀房 様
(紹介者 西山 潔 会員)

〈〈本日のBGM〉〉
アルバム「Carpenters / Their Greatest Hits」より



PHOTO 小池将夫会員

司会 小山 市康 副幹事

点鐘 江森 国一 会長

斉唱 「君が代」 「奉仕の理想」

四つのテスト 山本 芳弘 職業奉仕委員長
(第1例会のみ)

臨時総会

本日、会長(次々年度)及び2016-17年度の役員、理事の指名方法について、指名委員会によるものと決定しました。

ゲスト紹介

原 忠之 様 (スピーカーアシスタント)

ビジター紹介

川崎RC 堀内 愛元 様
神奈川RC 金野 克佐 様

結婚記念日祝

横溝 亘 会員 (11月4日)
白鳥 厚夫 会員 (11月7日)
富居 利貞 会員 (11月8日)
矢野 修二 会員 (11月9日)



2015-2016年度 RI会長 K.R. “ラビ” ラビンドラン



世界へのプレゼントになろう

第2590地区 ガバナー 箕田 敏彦

会 長 江森 国一	会 計 渡邊 淳
会長エレクト 植田 清司	副 会 計 白井 康夫
副 会 長 矢野 修二	S A A 長井 章
副 会 長 加藤 仁昭	副 S A A 白鳥 厚夫
幹 事 朝日 達夫	副 S A A 澁谷 高弘
副 幹 事 小山 市康	クラブ会報 田中 龍太郎

例会日 毎週金曜日 0:30 ~ 1:30 PM (第5金曜日 6:00 PM)
例会場 ホテルキャメロットジャパン
URL <http://www.kanagawahigashi.com/>
E-mail kerc@beach.ocn.ne.jp

事務局 ホテルキャメロットジャパン内
〒220-0004 横浜市西区北幸 1-11-3
TEL: 045-314-3900 FAX: 045-314-3555
創立記念日 昭和51年5月29日

会長報告 江森 国一 会長

- ・11月3日、フェリス女学院の学園祭に佐藤青少年奉仕委員長と訪問して参りました。
- ・10月31日、横浜市立神奈川小学校の創立140周年式典に朝日幹事と出席して参りました。
- ・先日の神奈川新聞に、鴻義久会員（県ビルメンテナンス協会会長）の記事が掲載されておりましたので、回覧します。

幹事報告 植田 清司 直前幹事

- ・次週、例会終了後に11月度定例理事会を開催致します。

委員会報告

雑誌委員会 委員 白井康夫

雑誌委員の白井でございます。雑誌委員会報告を行わせて頂きます。

「ロータリーの友」11月号の横書き28、29ページの世界のロータリーニュースの中にフランスの献血キャンペーンについて、アメリカの読み書きについての記事が掲載されております。特に赤い字で書かれてある部分に注目して頂ければ幸いです。

次に、縦書きの17ページ友愛の広場に「気持ちが悪い日本語」と題したコラムが掲載されております。現代の若者の日本語の乱れを指摘した内容となっており、自分自身、正しく日本語を使用出来ているだろうかと考えさせられます。

是非ご一読のほどよろしくお願い申し上げます。

出席報告 中野 真理 出席委員長

会員総数	53名	(31+22)名	
出席会員数	36名	(23+13)名	
出席率	81.82%		
ゲスト	1名	ビジター	2名
前回補正後	85.71%	前々回補正後	93.62%

スマイルボックス 澁谷 高弘 副SAA

川崎RC 堀内愛元様 久しぶりに寄らせて頂きました。飯田さん、よろしく。

神奈川RC 金野克佐様 本日もお世話になります。

矢野修二君 結婚記念日のお祝い、ありがとうございます。お蔭様で39年目を迎えることが出来ました。

横溝 亘君 ①結婚祝い、ありがとうございます。②矢野さん、今日の卓話、楽しみにしています。

白鳥厚夫君 結婚祝い、ありがとうございます。18年目に突入します。

江森国一君 矢野副会長、卓話、よろしくお願い致します。

山本 登君 大遅刻ですが、間に合いました。

加藤仁昭君 秋晴れの良い天気です。ソーラーが、最近、順調に稼働しています。

飯田泰之君 川崎RCの堀内さん、ようこそいらっしゃいました。

西山 潔君 矢野さん、本日の卓話、お願いします。楽しみにしております。

澁谷高弘君 暑い日、寒い日が続きます。皆さん、体調に注意して、ロータリーに出席しましょう。

11月6日	11件	23,500円
本年度累計		812,413円

「スリランカに焦点を当てて」

矢野 修二 会員



2000年5月の創立25周年を機会に、これまでの経験を生かし、クラブの企画による独自の国際協力に取り組む方針を決め、多角的な「スリランカ支援計画」を2年計画で実行しました。

その「スリランカ支援計画」とは、

1. 現地中央部の山村に、幼稚園を主体とする複合施設を建設・寄贈
 2. 神奈川県民に協力を求め、水不足に悩む地域3ヶ所へ井戸の掘削資金を提供
 3. 現地で「リトルガンジー」と慕われる指導者アリ博士を招いた講演会の開催
 4. 現地の幼稚園に「英訳付」の日本の絵本を送る京都橋高校の計画を全面支援
 5. クラブのHPにこの情報を随時提供し、支援の拡大を求めるPR活動の展開
- の、5項目でした。

現地との連携に全面的な協力をして下さったワンワールド・ワンピープル協会（OWOP）の鈴木一男会長、そのご紹介で当クラブの活動を現地で推進し監督して下さいましたサルボダヤ運動の創始者 アリヤラトネ博士とその多くのスタッフのお陰で実行できました。

活動1 「マータレー地区の山村に幼稚園を主体とした複合施設を建設、村に寄贈」

クラブ拠出金は100万円、800㎡の村有地に140㎡の平屋を建てました。サルボダヤ思想の「機械に頼らず、すべて村民の人力で造るのが基本」をもとに作業を行いました。

スリランカの幼稚園・5月9日に現地で贈呈式 村を挙げての大歓迎に訪問団も感動の涙

～クラブ創立25周年記念事業～

訪問団：永井・小池・岩澤の各会員夫妻と鴻・山田(富)・石川(正)各会員の9名で、コロンボから200kmの村に訪問し、笛や太鼓の民族舞踏団に出迎えられました。

活動2 「神奈川県民に協力を求め、水不足に悩む地域3ヶ所へ、井戸の掘削資金を提供」

活動3 「現地でリトルガンジーと慕われるアリ博士を招いた講演会の開催」

平成13年10月16日横浜で開催しました。

「愛と慈しみのある心豊かな社会を…」の呼び掛けに感銘
～10月16日スリランカ・アリ博士の特別講演会を開催～
緊急募金の井戸3本分の掘削資金も博士に託す

活動4 「現地の幼稚園児に英訳付の日本の絵本を贈る京都橋高校の計画を全面支援」

地元の京都新聞・読売新聞に取り上げられ、NHKのニュースでも報道され、関西で反響を呼んだ。

活動5 クラブのHPにこの情報を随時提供し、支援の拡大を求めるPR活動の展開

・・・サルボダヤ思想とは・・・

人間の人格を発展させるということです。人間の心の中の「愛・慈しみ」のことで、地球は人間だけでなく、動物・植物・虫など生きるもの全てを慈しみ愛することが物凄く大事だと考え、そのことをサルボダヤと呼んでいます。

ということで、素晴らしい運動だと思います。これからも神奈川県ロータリークラブとして、スリランカ支援をしていこうではありませんか。

今までにクラブでスリランカに送った井戸は60本、個人のものもたすと85本となります。とりあえず、100を目指して、次の奉仕を考えたらと思います。

テーマ「10年後の神奈川県東RC、 どんなクラブにしてみたいか？」

【第1テーブルミーティング】

平成27年10月16日（金） 「海鮮居酒屋 ふじさわ」にて
テーブルマスター：但野真美子 サブマスター：天野 公史

10月16日（金）に第一テーブルミーティングを、会場「ふじさわ」にて午後6時より開催しました。参加者は江森会長以下役員の方々を含めて13名で、「10年後の神奈川県東RC、どんなクラブにしてみたいか？」というテーマでミーティングをおこないました。今のように何でも話せる雰囲気であったり、この雰囲気を10年後も保つていくためにも会員を増やしていく、増やしていくためには内容の充実をはかったり、良いクラブだからこそ人に勧められるクラブにしていこうという意見などがあり、とても良いテーブルミーティングとなりました。

【第2テーブルミーティング】

平成27年9月18日（金）例会終了後 「ジュビリーⅢ」にて
テーブルマスター：茂木 知子 サブマスター：鴻 義久

来年もわからないのに、なんで10年後のことを考えられるのかという、冗談とも、本気ともつかない意見がありました。

10年後のクラブの在り方は、後継者の育成であるということではないでしょうか。

例えば、スリランカの井戸のプロジェクトにおいても、成り立ちと現在は語られるが未来が語られないと白鳥会員の意見がありました。それをうけて、石川会員から、後継者とそれを担う強力なリーダーの存在が不可欠ではないかと言われました。スリランカの井戸のプロジェクトも、鈴木会長というカリスマ性のあるリーダーに代わるリーダーがいらないのではないかと危惧されていらいやいました。

同じ思いを共有していくのは困難であるかもしれないが、継続ということを考えるなら、後継者の育成が必要であり、ロータリークラブも同様ではないかと石川会員が述べられたのが印象的でした。

【第3テーブルミーティング】

平成27年9月11日（金） 「安兵衛」にて
テーブルマスター：中野 真理 サブマスター：青柳 紀

当日は、石川Pが資料を持参下さり、第14代会長を務められた長谷川敬造氏の「ロータリーを作った人は偉いヨ。定年がないから俺のようなジイ様でも例会に行くと、若い連中がすーっと話の輪に入れてくれるんだ。ロータリーはいいなァ。素晴らしいヨ」という御言葉を紹介して下さいました。

そして、他の会員からも様々なエピソード披露を交えつつ、10年後の神奈川県東RCも長谷川氏の御言葉に相応しいクラブにしていきたい、尊敬する先輩方を温かく迎えることのできるクラブでありたいという意見がございました。

また、10年後という遠い先を考えることは難しいという意見もあり、多くの会員が賛同しつつも過去・現在の神奈川県東RCの良さとして、深く温かな人間関係や気遣いがあること、メンバーの人格的な素晴らしさ等が挙げられ、今後もそれらの良さを維持していきたいという意見が多数ございました。

一方で、今後、年齢や業種等より幅広い会員を増やしていきたいという話や若い世代の頑張りを期待する意見もございました。

当日は、終始和やかな雰囲気ではありましたが、今後の神奈川県東RCについて議論が盛り上がり、大変有意義なミーティングでした。

ロータリーニュース

国際機関へのロータリー代表がグローバルな活動を後押し

国際ロータリー（R I）は過去30年にわたり、国連や国連機関、その他の国際機関（アラブ諸国連合や欧州連合など）にR I代表を派遣してきました。世界各地では、そうした代表者が橋渡し役となって、大きなプロジェクトが実施されています。

例えば、南米のエクアドルでは、ロータリーと米州機構（O A S）の協力によって、学校に通う子どもたちの読書力が高まり、教師には専門研修が提供されています。

この活動のきっかけは、3年前、ベセスダ・シェーピーチェイス・ロータリークラブ（米国メリーランド州）のリチャード・カーソンさんとO A SへのR I代表が、O A S職員と学校における識字について話し合ったことでした。この時2人が紹介した読書力向上法が、エクアドルの活動実施に繋がったのです。

「ロータリアンでもあるエクアドルの副大統領と、さまざまな分野の教師に会いに、現地へ向かいました」とカーソンさん。「3つのロータリー地区と8つのクラブが参加したプロジェクトになりました」

新しい学業要件を達成するため、このプロジェクトでは教師に対する追加の研修（テクノロジーの利用など）も実施。このプロジェクトのためのグローバル補助金の申請に関わったレイチェル・ブレアさん（米国メリーランド州アナポリス・ロータリークラブ）は、現地の教師が感謝の気持ちを示してくれたことが感動的だったと振り返ります。

「先生たちは、ロータリークラブ、しかも海外のクラブが自分たちのスキル向上に関心を持ってくれたことが信じられないようでした。誰かに目をかけ、支援することによって、その人たちが輝き、スキルと才能を引き出せるんだということに気づかされました」

レバノンでは、ロータリークラブが国連の「アジア太平洋経済社会委員会」と協力し、国連ミレニアム開発目標とアラブ諸国での現状を高校生に教えるプロジェクトを実施。目標を達成

するために若い世代を教育することを目的としたこのプロジェクトの立役者は、国連機関にR I代表として派遣されたマイケル・ジャザールさん（レバノン、Kerousanロータリークラブ）でした。ジャザールさんはさらに、このプロジェクトを後押しするために、レバノン国内のクラブをつなぐ「National Rotary Lebanon Fund」の設立にも携わりました。

このように、ロータリーと国際機関との活動をサポートするR I代表は、ホワイトハウス、国連、コモンウェルス、欧州連合などでの行事に定期的に参加しているほか、個別会談の調整や特別行事の主催も担当しています。

国連での「ロータリーデー」

R I代表が参加する行事の中でも特別なのは、毎年ニューヨークの国連本部で行われる「ロータリーデー」です。今年は11月7日に開催され、ロータリーと国連のパートナーシップ70周年を祝うほか、各分野の専門家による講演が行われます。

1,000人以上が参加するこの行事では、さらに、水、衛生、飢餓、貧困、教育といった主題に関してアイデア交換も実施されます。午前中は青少年のためのセッションとなり、高校生（ロータリーのインターアクトや青少年交換プログラムの参加者を含む）が参加します。

ロータリーの国連代表であるジョセフ・ローレニさんは次のように話します。「国連本部のビルやほかの非政府組織の会合にロータリー代表として入っていくことで、ロータリーの信頼性が大いに高まります。ロータリーとは、単に看板で目にする団体名だけではないと伝えることができるのです」

長い歴史を誇るR I代表

R I代表ネットワークのルーツは、第二次世界大戦後に行われた国連の正式発足以前にまで遡ります。1942年、21カ国のロータリークラブが、各国の教育大臣を招いた会合をロンドンで開き、国家間の教育、科学、文化の推進をはかるアイデアが話し合われました。この会合は、現在の「国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）」の前身となりました。

さらに、1945年にサンフランシスコで行われた国連憲章の起草に、ロータリー会員の代表者が携わり、冷戦が勃発するまでの間、ロータリーから国連にサポートが提供されました。それから数十年、政治に関与しないというロータリーの方針から、国連への参加は減少。しかし、1985年にロータリーが開始したポリオ撲滅活動のため、国連機関であるユニセフと世界保健機関（WHO）とのパートナーシップが構築されました。

ロータリーニュース

次回〈11月20日〉の卓話予定

テーマ 「ロータリー財団 2015～16 年度概要」

第 2590 地区 R 財団委員会 副委員長 鶴岡 武 様